

長根だより

令和7年12月15日

12月号

長根小 学校通信

校訓

強く 明るく よく励む

表現する楽しさを広げる長根芸術祭

長根小学校長 三宅 勝之

長根芸術祭2025は、開校60年記念の節目にふさわしく、1・2学期を通して多彩な活動を重ね、子どもたちの表現力や感性に大きな成長が見られました。作品を鑑賞し、創作に挑戦する中で、「自分らしく表すことの楽しさ」や「仲間と考えを共有する面白さ」を実感する姿が印象的でした。

この成果を発表する場として、2月5日(木)に学校展示会を開催します。現在、どのような内容にするか検討中ですが、決まり次第お知らせします。保護者の皆様、地域の方々にもぜひ足を運んでいただき、子どもたちの学びの軌跡をご覧ください。

ここでは、これまでの長根芸術祭の6つの活動について、児童の振り返りの一部をご紹介します。

① hoshifuneさん・マウンキキさん 影絵のパペットづくりと歌のワークショップ【4年他】

6月4・5・6日

「自分の気持ちを表すのって難しいけど、『みんななり』に表現できていってすごいと思いました。」

「歌、劇、影絵が融合していくすごかった。また機会があったら

見たいと思いました。」

「自分の作品が映っていてうれしかったです。」



② 陶磁美術館館長による作品鑑賞の視点 土のワークショップ【6年生】 6月12日

「『音』や『優しさ』など形のないものを粘土で表現するという新しい発想に挑戦。」



「同じテーマでも人によって形が全く違い、個性の面白さを実感。」

「世界は人によって見え方が違うから面白いという気づきがあった。」

③ 木曾浩太さん土のアート ワークショップ【5年生】 6月13日

「土で絵の具を作るのが楽しかったです。絵を描くときに工夫したことは、影をつけたことです。」

「芸術が楽しいということを知れて、芸術に興味を持ちました。」

「土の絵の具を使ったら、薄かったり濃かったりを表現しやすくてすごく楽しかった」



④ 愛知県陶磁美術館 国際芸術祭あいち2025 鑑賞・作陶体験【6年生】9月26日

「いろんな作品を見て、考え方や見方が人によって違うことに気づきました。世界は面白くなるんだと思いました。」

「自分にとって『表現する』とは、周りの目を気にせず、頭に浮かんだことを粘土や絵に書き表すことだと思いました。」

「みんなの思う『わくわく』が全然違って楽しかったです。」



⑤ 国際芸術祭あいち2025 団体鑑賞プログラム(瀬戸市のまちなか会場)【5年生】10月9日

「作品をじっくり鑑賞し、作者の思いや工夫を考えることで『見方・感じ方』が深まった。」

「焼き物の質感や模様に、自然や生活とのつながりを感じた。」



「展示の仕方や照明によって作品の見え方が変わることに驚いた。」

⑥ 田口薰さん 木版画ワークショップ【6年生】11月26日

「『自分の好きなもの』をテーマに彫ることで、表現の自由度が高く楽しかった。」

「彫刻刀の種類で線の表情が変わることを知り、工夫する面白さを感じた。」

「『芸術には答えがない』『自分のスタイルを追求することが大切』という言葉が心に響いた。」



「夢中になってることを続けることが大事」という言葉に心がすごく動かされました。」

子どもたちは、この芸術祭を通して「表現する楽しさ」を知り、仲間とともに学びを深めてきました。作品には、その過程で育まれた感性や思いが込められています。

ぜひ、2月5日(木)の学校展示会で、子どもたちの成長の軌跡をご覧ください。保護者の皆様、地域の皆様とともに、この喜びを分かち合えることを楽しみにしています。

未来につながる子どもたちへ No.89

「すべての子どもは芸術家だ」

長根芸術祭を通して、「表現するって楽しい!」という気持ちをたくさん見つけることができたことがあります。アーティストとの出会い、作品づくりや鑑賞の中で、自分の思いを形にしたり、友達の感じ方にふれたりすることで、世界の見え方が広がったことだと思います。

有名な芸術家であるピカソは「すべての子どもは芸術家だ。問題は、大人になっても芸術家でいられるかどうかだ」と言っています。これからも絵や音、言葉や動きなど、どんな形でもよいので、自分の思いを表すことを大切にしてほしいと思います。表現は、みなさん的心を豊かにし、誰かの心にもあたたかく届くものです。